

## VISTA 6 ユーザーレポート

### 株式会社静岡第一テレビ様

#### VISTA 6



#### Bサブ稼働、VISTA 6で地上デジタル放送開始



株式会社静岡第一テレビ  
技術局 技術部  
長沢 茂

#### 地上デジタル放送とともに

静岡ではこの6月から地上デジタル放送がスタートし、弊社でも11月から放送を開始することになりました。この度、新設したBスタジオ・サブですが、実はスタジオ及びサブコン、所謂「箱」自体は6年前に既にできていました。しかし、地上デジタル放送、HD化、サラウンド対応等々、近い将来の方向性がはっきりしていなかったため、設備が先送りになっていたのです。結果的に、地上デジタル放送開始のタイミングに合わせて設備を構築することができ、正解だったと感じています。

#### 音声卓選定のポイント

Bサブ音声卓の機種選定にあたり、以下のポイントを考慮しました。

- ・安定性が高いこと
- ・音質が良いこと
- ・操作性が優れていること
- ・サラウンドオペレーションの扱いやすさ
- ・コストパフォーマンスがよいこと

また、アナログ卓ではなくデジタル卓を選択した理由は、今後、サラウンドをはじめ音声フォーマットがどのようになっていくのかが不透明

な故、導入後でも柔軟に仕様を変更できる卓にしておくべきであろうと考えたからです。

#### VISTA 6

スチューダーに関しては当初「舶来品への憧れ」といった部分がありました。当然のごとく先入観で「価格が高い」と決めつけていたのですが、意外や国産も含む他メーカーと比べても価格差がほとんどなく、予算の範囲内で手が届くということがわかりました。VISTAは見た目がとりわけトッポイ(笑)わけですが、それが見かけ倒しではなく、実際にEQやダイナミクス等の操作方法が大変わかりやすく、これなら生放送でのオペレーションにもきちんと対応できると感じました。本当に直感的に扱える卓であると思います。また、VISTAは6レイヤーを持っていますが、現場から「とにかく表面にできるだけ同じように扱えるフェーダーが欲しい」というリクエストがあったこと、モニターソースの切替えが手元で行えること、さらに汎用のカスタムスイッチを外部機器制御等に使えること等にメリットを感じたため、VISTAの中でも「6」を選択しました。

#### N-1送り&回線セクタ・ユニット

今回、N-1送りユニットをスチューダー・ジャパンに特注しました。電話5回線をN-1送り用で使うのか、テレピック用で使うのかを選択

し、N-1送りの相手に送る音声を切り替える動作が基本ですが、さらに「AUTO HOLD機能」を付加しました。相手が電話をかけてくれば、このユニットが自動的に電話をとり、保留状態にして相手にN-1音声を聞かせてくれるため、いちいちサブ側で電話をとる必要がありません。電波の状態が悪くOA中に回線断した際、相手が電話してくれば勝手に再接続してくれるこの機能は、とても有効だと思います。

#### 第一印象

11月1日から運用を開始したばかりですが、第一印象としては様々なことを「教えてくれる卓」であるということです。操作しているとその表示や動作に関して「ああ、そうか」と納得することが多く、これからも良きパートナーになってくれそうな卓であると実感しています。

